

条幅部自由参考

9月25日正午必着

明石春浦先生書



清風入梧竹せいふうこちくにいる（楊師道）
すずしい風が梧（きり）や竹にそよぐ。

明石幸子書



逢坂あふさかの関しみつの清水に かげ見えて いまや引くらむ 望月もちつきのこま（紀貫之）

9月25日正午必着

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

黃花香淡秋光老、落葉聲多夜氣清（張 陳）

菊の香もあわく、秋も深まり、落葉の音しげく夜気も涼しい。



西 墨濤先生書

秋燈如孤螢（陸 游）

秋燈孤螢の如し

秋のともしびは一匹の螢のようにわびしい。

月色横分窓一半（陸 游）
秋聲正在樹中間

月色横に分つ窓一半
秋聲正に樹の中間に在り。

月色は窓に明暗をわかち、秋聲は今しも樹間にたけなわである。

商山早行（溫庭筠）

商山の早行 溫庭筠

晨起動征鐸 客行悲故鄉
雞聲茅店月 人迹板橋霜
槲葉落山路 枳花明驛牆
因思杜陵夢 鳧雁滿回塘

晨に起きて 征鐸を動かす 客行 故郷を悲しむ
雞聲 茅店の月 人迹 板橋の霜
槲葉 山路に落ち 枳花 驛牆に明らかなり
因て思う 杜陵の夢 鳧雁 回塘に満つ

夜祭の萬燈の上にいよいよあがり大きなかも 今宵の月は（北原 白秋）

半紙部規定課題A

9月25日正午必着

故 停
人 舟
別

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

9月25日正午必着

行書



隸書



明石春浦先生書

草書



行草書



お逢いしても何のもてなしもできず、ただともに道を語り合うだけ、貧乏なことは誰でも周知のこと
 帰り行く道すじに、降り残る雨は分たれて 舟をとどめ、親しき友に別れをつける
 松木立の茂る山上の夜明け、霜が明るくかがやき 竹やぶの中の住居は春となり、花のしげみは暗い
 私もかねがね隠遁したいとは思っているのだが いつになったら、君の住む山中に身を寄せることができるのだろう

送人歸山

石召

相逢惟道在
 誰不共知貧
 歸路分殘雨
 停舟別故人
 霜明松嶺曉
 花暗竹房春
 亦有棲閑意
 何年可寄身

人の山に帰るを送る

石召

相違うて 惟だ道のみ在り
 誰か共に貧なることを知らざらん
 帰路 残雨を分かち
 舟を停めて 故人に別る
 霜は明らかなり 松嶺の曉
 花は暗し 竹房の春
 亦た棲閑の意有り
 何れの年か 身を寄す可き

(出典)
 朝日新聞社刊
 「三体詩」下より

常獨詣衆人疑恠彼人婦者儻能
端政暉赫絕曜或能極醜不可
顯現是以彼人故不將來今當設
計往觀彼婦即各同心密共相
語以酒勸之令其醉卧解取門
排使令五人往至其家開其門戶

常獨詣衆人疑恠彼人婦者儻能／端政暉赫絕曜或能極醜不可／顯現是以彼人故不將來今當設／計往觀彼婦即各同心密共相／語以酒勸之令其醉卧解
取門／排使令五人往至其家開其門戶

端政暉赫絕曜或能
極醜不可顯現

端政暉赫絕曜或能極醜不可顯現

能極醜
不可

能極醜不可

奈良 伝 聖武天皇・賢愚経

古来、聖武天皇（七〇一～七五六）の筆とされているが定かではないようである。賢者と愚者に関する比喩的な小話69篇を収めた一部13巻からなる経典である。

茶毘紙と呼ばれる香木の粉末をすき込んだ料紙に書かれているが、表面のつぶつぶが、あたかも茶毘に附された骨粉のような感じがするため、信仰的伝説からこのように呼ばれている。

この書は、古筆手鑑の巻頭を飾る名筆として伝えられており、墨量のある重厚で雄渾な筆致で、写経の中でも特に字粒が大きい。端正で気魄に満ちた書きぶりを学びたい。

※古筆手鑑…古人の名跡を切り取って幅に仕立て、帖に貼って鑑賞されるもの。
(春濤)

(春濤)

夜露

よ
夜

つゆ
露

中学一年

雨宮春聲先生書

藍色

あい
藍

いろ
色

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

結果

榎戸春龍先生書

けっ
結

か
果

小学五年

通訳

藤井良泰先生書

つう
通

やく
訳

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

9月25日正午必着

目次

藤田幸春先生書

もく
目

じ
次

小学三年

入門

細谷春誠先生書

にゅう
入

もん
門

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

つ

き

小学一年・幼年



森戸春濤書

お
多

い

小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

9月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

とぶ円ばんを見た
銀色にかがやく空

小学五年

し雲が流れて行く
秋晴れの空をいわ

小学六年

育てることが大切です
生涯かわらぬ友情を

中学

月つきに秋の風情ふうせいを感じる
雲間うもに見えかくれする

一般(級位)

おほかた
大方の秋の空だにわび佳しきに物思ひそふる君にもあるかな(右近)

ちか秋の空だに霞きりに
おまひそふる君にもあるかな

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

天	気
よ	ほ
う	が
み	ご
と	に
的	中
し	ま
し	た

小学四年

月	夜
に	ひ
び	き
わ	え
た	る
虫	の
こ	こ
え	え

小学三年

今	に
も	雨
が	ふ
つ	き
そ	う
で	す
て	き

小学二年

あ	お
い	空
が	つ
ど	く
こ	ま
で	も
づ	づ

小学一年

す	に
き	ゆ
が	れ
い	て
か	い
ぜ	る

幼年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

おしなべて

紅葉しみてる 八重山の 谷間遠白く 水おちたぎつ

おしなべて 紅葉しみてる 八重山の 谷間遠白く 水おちたぎつ



岩本景楓先生書

おしなべて 紅葉しみてる 八重山の 谷間遠白く 水おちたぎつ (伊藤左千夫)